

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01824

研究課題名(和文) 科学分析手法と土器使用痕観察を組み合わせた古食性と調理形態復元に関する学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary research for reconstruction of paleo diets and heating method in cooking pods combined with lipid and usage analysis

研究代表者

宮田 佳樹 (Miyata, Yoshiki)

東京大学・総合研究博物館・特任研究員

研究者番号：70413896

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,200,000円

研究成果の概要(和文)：考古学的な土器残存脂質分析に特化した、日本で初めてのバイオマーカー解析、分子レベル炭素同位体測定システムを構築し、縄文弥生移行期以降の各遺跡から、キビのバイオマーカーであるミリアシンを検出することに成功した。

本研究では、器種・器形分類、土器使用痕観察情報と土器残存脂質分析を組み合わせる学際的なアプローチを導入することによって、新石器時代の東アジアを特徴的づける植物性食材である米やアワ、キビ、ヒエなどの雑穀等デンプン質の穀物に対して、調理内容物と煮炊蒸炒など調理形態の復元を同時に行う、新たな研究手法を確立することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、遺跡出土遺物の同定結果や歯骨に残された平均食性情報からでは、推定するのが困難であった、縄文弥生移行期以降の米、アワ・キビなどの穀物利用の様相を土器から評価できる学際的研究手法を確立できた。個々の調理の影響を直接反映する土器から古食性と煮炊蒸炒など調理形態を同時に推定できるようになったため、特に、弥生時代から古墳時代以降にかけて、社会の成熟に伴い、「米への依存度が大きくなるのか、あるいは変わらないのか？」などという食文化、歴史研究へと昇華できるようになった。

研究成果の概要(英文)：We build a first laboratory for compounds-specific biomarker and stable carbon isotope analysis of lipid preserved in archaeological pottery vessels in Japan and succeeded in detect miliacin in pottery vessels from archaeological site after Jomon-Yayoi transition. Cereals consisted of rice, foxtail millet, common millet and Japanese barnyard millet, are typical starchy foods, the existence of which are characterized as East Asia in the Neolithic period. However, it was too little amounts of lipid preserved in pods, so that there has been little study done as a target of lipid analysis so far.

In this study, by introducing an interdisciplinary approach combined lipid analysis with use-wear and vessel form analyses, we established a new research method to reconstruct of paleo diets together with the heating method in cooking pods such as boiling, steaming and frying. It found that this kind of interdisciplinary approach would be effective in starchy cereal cooking.

研究分野：文化財科学・考古科学

キーワード：脂質分析 バイオマーカー 分子レベル炭素同位体組成 土器 古食性復元 器種分類 土器使用痕観察 フードスケープ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

食生活の地域、時代による変遷は、日本のみならず世界全般の考古学、人類学共通の疑問の一つである。これまでの知見から、縄文時代の人々はドングリなどの堅果類、陸獣、海産魚介類などを主食としてきた。しかし、それらの食材の寄与は時期、場所によって大きな違いがあり、文化、生活様式、周辺環境などとも密接な関係にある。遺跡では直接食材推定につながる動植物遺体よりも土器が出土される方が一般的であるため、土器に残存する有機物から土器で調理した食材を推定できるとすれば、非常に効果的な研究手法である。

土器で調理を行うと、土器の外表面と内面に炭化物が付着する(図1)。土器外面には、薪など燃料材を起源とする“スス”と調理内容物の“吹きこぼれ”が付着し、土器内面には、食材を起源とするコゲが付着する。コゲは主として、タンパク質と炭水化物からなり、食材に起因する脂質は、このコゲ、あるいは、土器胎土に吸着する。したがって、土器に残存する有機物を分析することにより、三大栄養素であるタンパク質、炭水化物、脂質に関する情報を復元できる可能性がある。また、低湿地遺跡などを除けば、必ずしも、食性解析に利用できる炭化物が付着した土器は、全ての遺跡から出土する訳ではないが、酸性土壌が主体の日本列島では、人骨の分析により食性復元ができる遺跡に限られるため、普遍的に試料が得られる土器残存有機物を利用した食性解析手法が確立すると、列島全体の食性の特徴を検討する上で、非常に有益である。

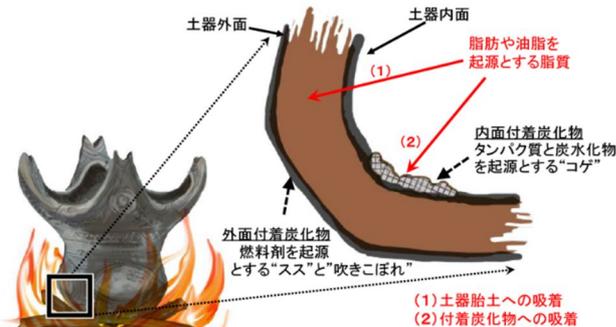


図1. 土器残存有機物とは?

ヨーク大学の研究グループ(Craigら, 2013)が、縄文時代草創期の鳥浜遺跡から出土した35点の土器付着炭化物を脂質分析したところ、32点から脂質が抽出され、17点から水棲動物のバイオマーカーの影響が検出された(17/35)。それ以外の6遺跡からは、22点の土器付着炭化物を脂質分析し、3点から脂質が検出され、そのうちの1点(大正3遺跡)から水棲動物のバイオマーカーが検出された(1/22)。結論は、狩猟採集民による最初期の土器利用は、水産物の煮炊きに依存しているというものであった(水棲生物のバイオマーカーが検出されたのは、ほぼ鳥浜遺跡に限定されている点には留意する必要がある)。これまでの研究は、主として、バイオマーカーの有無し論で調理起源物質を推定するのみであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、縄文・弥生土器表面に付着する炭化物(土器付着炭化物)と土器胎土に吸着する有機物(土器胎土吸着物)、二種類の残存有機物の起源を最新の有機地球化学的手法によって分析し、スス・コゲ、黒斑の位置など三次元形態観察情報と比較することにより、調理形態(土器選択、おき火なども含めた煮炊蒸炒などの加熱方法)も含めた包括的な古食性復元を行うことである。時代変遷と土器による食材調理、火種との関係を含む調理形態の変容は密接な関係にあるため、残存有機物情報に、スス・コゲ使用痕観察、民俗調査も含む調理実験結果を加味することにより、動・植物性食材を混ぜた“ごった煮”，お米を炊くような調理など、日本列島に住む我々の祖先の食生活をより具体的に復元していきたい。

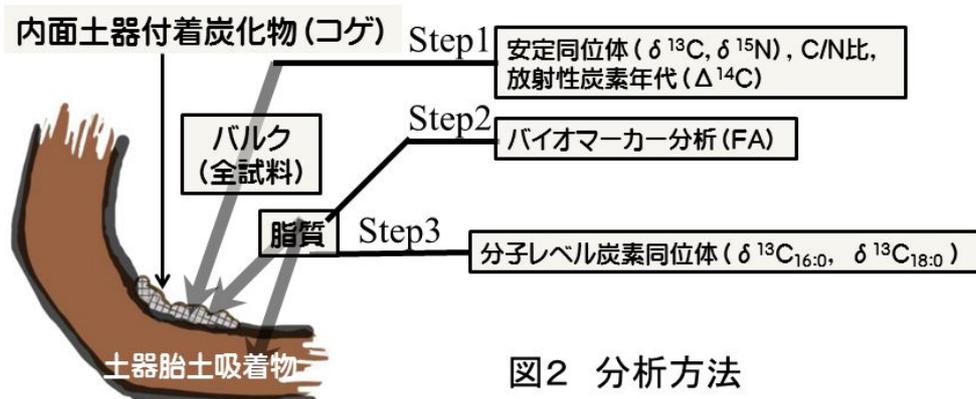


図2 分析方法

3. 研究の方法

本研究では縄文・弥生人が土器で何を調理していたのかを知るために、土器に残存する有機物を分析する。主な対象物は、内面土器付着炭化物“コゲ”と土器胎土吸着物である(図2)。まず、土器に内面に付着した炭化物のバルクの安定同位体組成、C/N比を、現生の動植物からなる食材グループの領域図と比較することにより、土器で調理した食材を推定する。また、このバルクの炭化物の炭素年代測定を行い、土器付着炭化物の年代から、土器使用時の年代を推定する(Step.1)。次に、この内面付着炭化物や土器胎土に吸着した脂質を分析する。まず、脂質の抽出にあたっては、Correa-Ascencio and Evershed (2014)とPapakosta et al. (2015)を改良したSmall Scaleの直接メチル化脂質抽出分析法を用いた。回収した脂質は測定直前にトリメチルシリル化して、ガスクロマトグラフ質量分析装置(GC-MS)で脂質組成を分析し(Step.2)、燃烧炉付ガスクロマトグラフ同位体比質量分析装置(GC-IRMS)で、回収した脂質のうち、80-90%を占める主要な脂肪酸であるパルミチン、ステアリン酸の分子レベル炭素同位体組成($^{13}\text{C}_{16:0}$, $^{13}\text{C}_{18:0}$)を測定し、現生の生態試料からなる食材グループのそれと比較することにより、調理された食材を推定する(Step.3)。さらに、炭水化物の分解生成物であるレボグルコサンというバイオマーカーは酸抽出では分解されてしまうので、場合に応じて、炭水化物を評価するために、伝統的なクロメタ溶液(クロロホルム:メタノール=1:2)による全脂質抽出法(Total Lipid Extraction)も併用した。これら分析操作は、山本真也(分担者)の助力を得て、全て東京大学総合研究博物館タンデム加速器分析室(MALT)で行った。

また、調査土器の土器使用痕観察は、小林正史、久保田慎二、北野博司(分担者)、下濱貴子、村本周三、外山政子、小此木真理、松永篤志ら(研究協力者)と、調査土器、遺跡情報は、上條信彦、横幕真、櫻田誠、久田正弘、高橋敦、高田秀樹、藤田三郎、白石哲也、遠部慎、納屋内高史、藤田慎一、平河内毅、野原大輔ら(研究協力者)の助力を得た。

など、研究協力者の助力を得て行った。

4. 研究成果

1) 考古学的な土器分析に特化した、日本初の土器残存脂質分析システムの立ち上げ 直接メチル化脂質抽出分析法

Correa-Ascencio and Evershed (2014)とPapakosta et al. (2015)を改良したSmall Scaleの直接メチル化脂質抽出分析法(AME; Acid Methyl Extraction)を立ち上げた。土器に残存する脂質は不均一でかつ、濃度も低いため、伝統的な全脂質抽出法では、分析数の2-3割程度しか、分析可能な脂質が抽出できず、必ずしも有効なバイオマーカーが検出できるわけでもない場合が多かった。しかし、酸抽出法を利用すると、土器胎土なら、200mg、付着炭化物なら、20mgとクロ/メタ溶媒を用いる従来のTLE法の1/10程度の土器試料から充分量の脂質抽出が可能となり、しかも、分析した60-70%の土器から、分子レベル炭素同位体組成が簡易に分析できるため、バイオマーカーが検出できない場合でも、最低限の食性に関する情報を得ることができるようになった。

TLE法の迅速化

AME法では分解してしまう、炭水化物の分解生成物であるレボグルコサン(デンプンのバイオマーカー)の存在を検討するには、従来法であるTLE法を利用することが必要であるため、無汚染濃縮蒸発装置であるコンビニエバポを導入し、クロメタ溶媒を用いたTLE法による脂質分離濃縮の分析効率を高め、2日で濃縮作業を完了し、3-4日でバイオマーカー分析できるようにした。

GC-IRMS分析システムの構築

新規導入した燃烧炉付ガスクロマトグラフを同位体比質量分析計(IRMS)に接続し、さらに、前倒し購入したオートサンプラーとionOSソフトウェアを組み合わせることにより、自動のパルミチン酸・ステアリン酸の分子レベル炭素同位体組成分析システムを立ち上げた。

日本産現生生態試料による分子レベル炭素同位体組成領域図作成

これまでにブリストル大学との共同研究によって測定した試料、先行研究の分析例もあわせて、81点の分析値がある。今後、さらに骨などの遺物も利用して、先史時代の食性を復元するためのより確からしい、領域図の作成を続けるつもりである。

以上のように、考古学的な土器残存脂質分析に特化した日本で初めてのバイオマーカー解析、分子レベル炭素同位体測定システムを立ち上げることに成功した。研究期間の最終年度である2019年度は、年間360試料ほどの脂質分析を行えるようになった。

2) 脂質バイオマーカーの評価 動物性脂質

対雁2遺跡(北海道), 真脇遺跡(石川県), イカベツ2遺跡(北海道), シャチコツ岬上遺跡(北海道)など, 分析した多くの土器から, 水棲動物のバイオマーカーであるイソプレノイド類と加熱調理のバイオマーカーであるアルキルフェニルアルカン酸(APAA)などがセットで検出された。海産動物を土器で調理している可能性が高いという考古学的なコンテキストと統合的な脂質バイオマーカーを得ることができた。多くのデータは, 分子レベル炭素同位体組成との整合性も高かった。さらに, 対雁2遺跡では, 土器使用痕観察結果と内外面土器付着炭化物のバルクの安定同位体組成, 炭素年代測定結果, 脂質分析結果を組み合わせることにより, 海産物と想定される調理内容物が吹きこぼれて, 外面に付着している様相が明らかになった。土器付着炭化物の成因を考えることにより, 外面付着炭化物の炭素年代が想定される遺跡の年代よりも古い年代を示す一因を説明できた。

植物性脂質

中又北遺跡(香川県)から出土した内面付着炭化物を脂質分析したところ, ツルボ“状炭化物から抽出した脂質は, 同時に分析したイソプレノイド類が検出された付着炭化物2試料とは異なり, 植物質の長鎖炭化水素と植物性ステロールが検出された。さらに, 分子レベル炭素同位体組成は, 海産物の影響を強く受ける2点とは異なり, (動物性脂質の影響を受けていないのかわろかは, 判断できないが,) C₃植物の領域周辺に分布し, 植物性脂質として, 統合的な分析結果を示した。

縄文弥生移行期以降の日本列島におけるキビの検出

キビのバイオマーカーであるミリアシンが縄文弥生移行期以降の日本各地の遺跡出土土器から検出された。例えば, 中部高地の弥生時代初頭に相当する水神平式併行期の土器7破片中4破片から, ミリアシンを検出した。本邦初のミリアシンの検出事例である。

また, 唐古・鍵遺跡(奈良県)の祭祀の場所ではないかと推定されている清水風遺跡(奈良県)から出土した弥生時代中期の各器種の土器付着炭化物からもミリアシンを検出した。甕では, 「米のみを煮炊きしている」というよりは, 「米などを含むC₃植物と陸獣のような動物質食材や雑穀であるキビなど」, 複数の食材と一緒に煮炊きしていた。さらに, 4例であるが, 分析した甕以外の鉢や壺などは, 全て, 「米などを含むC₃植物に加えて, キビと海産物」を一緒に煮込んでいた。同時代の唐古・鍵遺跡の土器試料からは, これまで, 「キビや海産魚類」の煮炊き例は検出されておらず, 清水風遺跡では, 器種, 器形による使い分けが存在する可能性が示唆された。

3) 器種分類と使用痕観察情報を利用した, 初期稲作遺跡における土器残存有機物による調理内容物と煮炊蒸炒などの調理形態の復元

田螺山遺跡

河姆渡文化を代表する田螺山遺跡で最も古い第8・7層段階(BC5000~4800 ぐらい)では, 「内傾タイプ」, 「球胴タイプ」, 「広口タイプ」の3形式の土器が併存しており, 使用痕などの特徴から, これらは異なる目的の調理に使用されたと考えられる。「内傾タイプ」といわれる土器では, 「米などとともに, ヒシ, 堅果類などのデンプン質食材と陸獣や魚類などの動物質食材を, 炊飯ではなく, 粥状に煮込む“ごった煮”のような調理が行われたと推定される(久保田ら, 2017)。対照的に, 「球胴タイプ」は, 使用痕や器種組成から, 米を炊いた土器ではないかと推定されている。もし, “煮る”と“炊く”という2つの米調理法に応じて, 土器を使い分けしているという考古学的な推定が正しいとすれば, 他の二種の土器に比べて, 抽出される脂質量, バイオマーカー類が少ないため, 脂質の少ない植物質を主体とする調理に用いられた可能性があり, 米を主体とする植物質を炊いていたという推定と整合的である。さらに, 「広口タイプ」といわれる土器は, 使用痕解析の結果, スープ状に煮込む調理が行われていたと推定されている。脂質分析の結果を組み合わせると, 陸獣や魚介類などの動物質と植物質をスープ状に煮込んでいたと推定される(久保田ら, 2019)。

八日市地方遺跡

北陸地方の稲作導入定着期である弥生時代中期前葉(八日市地方4, 5期)の土器では「単に米のみを炊いていた」のではなく, 「米や堅果類を含むデンプン質のC₃植物と, アワ・キビなどC₄植物である雑穀や陸棲動物を含む様々な食材を炊いていた」食材組み合わせパターンが示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計94件（うち査読付論文 35件 / うち国際共著 13件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Yamamoto Shinya, Miyairi Yosuke, Yokoyama Yusuke, Suga Hisami, Ogawa Nanako O, Ohkouchi Naohiko	4. 巻 62
2. 論文標題 Compound-Specific Radiocarbon Analysis of Organic Compounds from Mount Fuji Proximal Lake (Lake Kawaguchi) Sediment, Central Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 439 ~ 451
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/RDC.2019.158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 久保田慎二	4. 巻 -
2. 論文標題 下七垣文化研究の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大貫静夫先生退官記念論集 (仮)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 久保田慎二, 小林正史, 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 中国新石器時代長江下流域における土器利用の変遷 - 土器使用痕分析と残存脂質分析を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第86回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小林謙一, 山本真也, 佐野隆, 宮内信雄, 堀内晶子, 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 中部高地の土器脂質分析 - 縄文時代前期から後・晩期にかけて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第86回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真也, 佐野隆, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 中部高地の土器脂質分析 - 縄文晩期から弥生時代へかけて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第86回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠部慎, 柴田昌児, 宮里修, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 猿楽遺跡出土土器の脂質分析 - 縄文晩期の四国山地 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第86回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石哲也, 藤田三郎, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 清水風遺跡出土土器の脂質分析から見えてきたもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第86回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹, 白石哲也, 久保田慎二, 小林正史, 藤田三郎, 柴田将幹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫	4. 巻 -
2. 論文標題 唐古・鍵遺跡出土土器の脂質分析-米はいつから主食となったのだろうか-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第86回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹	4. 巻 27
2. 論文標題 甕で炊かれた食材とは	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「よみがえる弥生の祭場―唐古・鍵遺跡と清水風遺跡」 『唐古・鍵考古学ミュージアム 展示図録』	6. 最初と最後の頁 9-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 吉田邦夫, 堀内晶子, 小林謙一	4. 巻 -
2. 論文標題 福島県和台遺跡出土土器の残存有機物分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和台遺跡	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 吉田邦夫, 堀内晶子, 小林謙一	4. 巻 -
2. 論文標題 上ホシ遺跡(1) 調査地点出土土器の脂質分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上ホシ遺跡(1)	6. 最初と最後の頁 164-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関根達人, 米田穰, 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫	4. 巻 26
2. 論文標題 福山城下町遺跡の地鎮に使われた灯明皿とその油種	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道考古学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 村本周三, 小林克也, 平河内毅	4. 巻 42
2. 論文標題 北海道斜里町チャシコツ岬上遺跡出土土器の残存有機物分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 知床博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷綾子, 岡崎健治, 澤田純明, 宮田佳樹, 覚張隆史, 米田穰	4. 巻 -
2. 論文標題 長江下流域の新石器時代における食性と古病理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第85回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 130-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内晶子, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 下濱貴子, 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 八日市地方遺跡出土土器の脂質分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第85回日本考古学協会要旨集	6. 最初と最後の頁 220-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慎二	4. 巻 -
2. 論文標題 从実験考古看空三足器的分布拡大背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早期都邑文明的発現研究与保護传承暨陶寺四十年発掘与研	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 100
2. 論文標題 山陰における湯取り法炊飯から米蒸し調理への転換過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 12
2. 論文標題 ウルチ米を蒸す調理の民族誌比較：ジャワの二度蒸し法を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北陸学院大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 31-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 145
2. 論文標題 弥生時代から古墳前期への湯取り法炊飯の変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 117-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 99
2. 論文標題 北タイ・カレン族の伝統的米調理方法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 75-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慎二、宮田佳樹、小林正史、孫国平、王永磊、中村慎一	4. 巻 145
2. 論文標題 河姆渡文化の副食調理土器 学際的手法によるアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsuta Nagayoshi, Miyata Yoshiki, Murakami Takuma, Mino Yoshihisa, Naito Sayuri, Yasuda Koji, Ochiai Shinya, Abe Osamu, Yasuda Atsushi, Morimoto Maki, Kawakami Shin-ichi, Nagao Seiya	4. 巻 102
2. 論文標題 Interannual changes in radiocesium concentrations in annually laminated tufa following the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Applied Geochemistry	6. 最初と最後の頁 34 ~ 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apgeochem.2019.01.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Horiguchi, T., Kodama, K., Aramaki, T., Miyata, Y. and Nagao, S.	4. 巻 137
2. 論文標題 Radiocesium in seawater, sediments, and marine megabenthic species in coastal waters off Fukushima in 2012-2016, after the 2011 nuclear disaster	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Marine Environmental Research	6. 最初と最後の頁 206-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.marenvres.2018.03.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹、遠部慎、宮内信雄、堀内晶子、吉田邦夫	4. 巻 27
2. 論文標題 萩ノ岡貝塚の糞石の残存脂質分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛県歴史文化博物館資料目録	6. 最初と最後の頁 98-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内晶子、宮内信雄、吉田邦夫、下濱貴子、宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 八日市地方遺跡出土土器胎土の脂質分析及び付着炭化物の安定同位体分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小松市埋蔵文化財センター	6. 最初と最後の頁 99-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹	4. 巻 -
2. 論文標題 八日市地方遺跡出土炭化米の炭素年代測定結果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小松市埋蔵文化財センター	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久米正吾、早川裕式、覚張隆史、藤澤明、新井オ二、ゲードレ モツザイテ マツゼピチウテ、金田明美、山口雄治、宮田佳樹、パフティヨル アブドゥッラエフ、ヒクマトゥッラ ホシモフ、アイダ アブディカノワ、ボキジョン マトババエフ	4. 巻 -
2. 論文標題 天山・フェルガナの初期農耕牧畜民の考古学 - キルギス、モル・ブラク遺跡およびウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡の発掘調査 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シルクロードを掘る - 今蘇る、いにしへの道 - 資料集	6. 最初と最後の頁 157-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 久米正吾、早川裕式、覚張隆史、藤澤明、新井オ二、金田明美、山口雄治、宮田佳樹、パフティヨル アブドゥッラエフ、ヒクマトゥッラ ホシモフ、アイダ アブディカノワ、ボキジョン マトババエフ	4. 巻 26
2. 論文標題 中央アジア初期農耕牧畜民の交流から東西交渉の始まりを探る - キルギス、モル・ブラク1遺跡 (第2次)、ウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡 (第1次) の発掘調査 (2018年) -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中川真人、宮田佳樹、宮内信雄、堀内晶子、吉田邦夫、黒沼保子	4. 巻 27
2. 論文標題 古代相模国北部の灯明皿 脂質分析による油の検討を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 相模原市立博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 30
2. 論文標題 縄文深鍋による調理方法とサイズ間の使い分け	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟考古	6. 最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 62
2. 論文標題 加賀における弥生から古墳への炊飯方法の変化： 沖町遺跡のスス・コゲ分析を中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 石川県考古学研究会会誌	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史、久保田慎二、陳維鈞	4. 巻 38
2. 論文標題 スス・コゲからみた台湾北部の新石器時代～中近世の炊飯方法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア考古学会誌	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 98
2. 論文標題 竈構造の時間的变化と地域差についての定量的分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 99-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 98
2. 論文標題 古墳時代・古代の米蒸し調理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史、滝沢規朗	4. 巻 29
2. 論文標題 スス・コゲからみた東北地方(阿賀北以北)の弥生・古墳深鍋による炊飯方法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新潟考古	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shoda, S., Lucquin, A., Sou, C-I., Nishida, Y., Sun, G., Kitano, H., Son, J-H., Nakamura, S., and Craig, O-E.	4. 巻 8
2. 論文標題 Molecular and isotopic evidence for the processing of starchy plants in Early Neolithic pottery from China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-35227-4.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 福田正宏、國木田大、遠藤英子、ゴルシュフM、那須浩郎、北野博司	4. 巻 -
2. 論文標題 ポリツェ文化の穀物利用と食生活	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 設楽科研業績集	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮田佳樹、堀内晶子、宮内信雄、吉田邦夫	4. 巻 84
2. 論文標題 土器脂質分析研究室の開設 (MALT) -日本列島のフードスケープ (食景観) 復元を目指して-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本考古学協会第84回総会研究発表要旨集	6. 最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内信雄、吉田邦夫、西田泰民	4. 巻 84
2. 論文標題 日本列島産食材の炭素・窒素同位体比と調理による変化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本考古学協会第84回総会研究発表要旨集	6. 最初と最後の頁 106-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田邦夫、宮内信雄、堀内晶子、宮田佳樹	4. 巻 84
2. 論文標題 日本列島産現生生物の分子レベル炭素同位体組成と脂質組成に基づく食性解析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本考古学協会第84回総会研究発表要旨集	6. 最初と最後の頁 108-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内信雄、堀内晶子、吉田邦夫、松崎浩之	4. 巻 -
2. 論文標題 第 8 章 土器残留物の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 県営湛水防除事業関係発掘調査報告書 土橋北遺跡	6. 最初と最後の頁 54-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内信雄、吉田邦夫、中村耕作	4. 巻 -
2. 論文標題 第 6 章 第 2 節 生麦八幡前遺跡J2号竪穴覆土の土壌分析と倒置深鉢・埋甕について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生麦八幡前遺跡	6. 最初と最後の頁 341-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村俊夫、南 雅代、増田公明、小田寛貴、三宅美紗、池田晃子、栗田直幸、山根雅子、西田真砂美、藤沢純平、佐藤里名、酢屋徳啓、北川浩之	4. 巻 3
2. 論文標題 名古屋大学タンデトロンAMS 14Cシステムの現状と利用 (2018)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋大学年代測定研究	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村俊夫	4. 巻 -
2. 論文標題 名古屋市守山区東谷山湿地から採取した堆積物柱状コア試料のAMS 14C年代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋市東谷山湿地ボーリング調査報告書	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuru Okuno, Toshio Nakamura, Minoru Sakamoto, Shinya Yatsuzuka, Teruki Oikawa,	4. 巻 -
2. 論文標題 Eruption age of the Haruna Futatsudake Pumice (Hr-FP), central Japan, by radiocarbon wiggle matching with special reference to a 14C dataset developed from a Japanese tree	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) org/10.1016/j.quaint.2018.12.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kubota, K., Shirai, K., Murakami-Sugihara, N., Seike, K., Minami, M., Nakamura, T., Tanabe, K.	4. 巻 60
2. 論文標題 Bomb-14C peak in the North Pacific recorded in long-lived Baivale shells (<i>Mercenaria stimpsoni</i>)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 1483-1492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/RDC.2018.103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永田和宏、古主康子、松原章浩、國分 (齋藤) 陽子、中村俊夫	4. 巻 104
2. 論文標題 加速器質量分析 (AMS) による和釘の製造年代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鉄と鋼	6. 最初と最後の頁 488-491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村俊夫、南 雅代、増田公明、小田寛貴、池田晃子、栗田直幸、山根雅子、西田真砂美、酢屋徳啓、北川浩之	4. 巻 31
2. 論文標題 名古屋大学AMS 14C測定の実況と応用研究 (2018)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第31回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会報告集	6. 最初と最後の頁 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小元久仁夫、中村俊夫、松島義幸	4. 巻 57
2. 論文標題 資料：沖縄県伊江島のナガラ原第三貝塚およびカヤ原遺跡A地点から出土した貝殻および木炭の14C年代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第四紀研究	6. 最初と最後の頁 77-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4116/jaqua.57.77	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田恵美、木村勝彦、八塚楨也、中村俊夫、宮本 毅、長瀬敏郎、金 旭、奥野 充	4. 巻 48
2. 論文標題 白頭山北麓, 10世紀噴火のラハール堆積物の埋没樹木の14Cウイグルマッチング年代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡大学理学集報	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野 充、長岡信治、國分(齋藤)陽子、中村俊夫、小林哲夫	4. 巻 48
2. 論文標題 加速器質量分析法による九重火山群、黒岳火砕流堆積物の放射性炭素年代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡大理学集報	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Noguchi, Toshiyuki Fujiki, Mitsuru Okuno, Lyn Gualtieri, Virginia Hatfield, Brenn Sarata, Masayuki Torii, Keiji Wada, Toshio Nakamura, Dixie West	4. 巻 60
2. 論文標題 Vegetation Changes around Haven Lake, Adak Island, Central Aleutians, Alaska, determined by pollen analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 1483-1492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/RDC.2018.103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 中村俊夫	4. 巻 6
2. 論文標題 纏向遺跡出土のモモの核のAMS 14C年代測定	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 纏向学研究 (纏向学研究センター研究紀要)	6. 最初と最後の頁 67-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto, S., Uchiyama, T., Miyairi, Y., Yokoyama, Y.	4. 巻 119
2. 論文標題 Volcanic and environmental influences of Mt. Fuji on the 13C of terrestrially-derived n-alkanoic acids in sediment from Lake Yamanaka, central Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Organic Geochemistry	6. 最初と最後の頁 50-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.orggeochem.2018.02.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本真也、内山高	4. 巻 88
2. 論文標題 河口湖における過去約100年間の降水量と湖水位変動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 131-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Obrochta, S.P., Yokoyama, Y., Yoshimoto, M., Yamamoto, S., Miyairi, Y., Nagano, G., Nakamura, A., Tsunematsu, K., Lamair, L., Hubert-Ferrari, A., Loughheed, B.C., Hokanishi, A., Yasuda, A., Heyvaert, V.M.A., De Batist, M., Fujiwara, O., the QuakeRecNankai Team	4. 巻 200
2. 論文標題 Mt. Fuji Holocene eruption history reconstructed from proximal lake sediments and high-density radiocarbon dating	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quaternary Science Reviews	6. 最初と最後の頁 395-405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quascirev.2018.09.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lamair, L., Hubert-Ferrari, A., Yamamoto, S., Fujiwara, O., Yokoyama, Y., Garrett, E., De Batist, M., Heyvaert, V.M.A. and the QuakeRecNankai Team	4. 巻 514
2. 論文標題 Use of high-resolution seismic reflection data for paleogeographical reconstruction of shallow Lake Yamanaka (Fuji Five Lakes, Japan)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology	6. 最初と最後の頁 233-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.palaeo.2018.09.028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lamari, L., Hubert-Ferrari, A., El Ouahabi, M., Yamamoto, S., Schmidt, S., Auwera, J.V., Lepoint, G., Boes, E., Fujiwara, O., Yokoyama, Y., De Batist, M., Heyvaert, V.M.A	4. 巻 20
2. 論文標題 Late Holocene changes in erosion patterns in a lacustrine environment: landscape stabilization by volcanic activity versus human activity	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geochemistry, Geophysics, Geosystems	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1029/2018GC008067	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 芹澤如比古、中村誠司、加藤 将、志賀 隆、山ノ内崇志、首藤光太郎、坪田和真、緑川昭太郎、上嶋崇嗣、渡邊 亮、井藤大樹、中村高志、山本真也、芹澤 (松山) 和世	4. 巻 13
2. 論文標題 富士北麓、河口湖における水草・車軸藻類と湿生植物の分布状況 - 2017 年 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富士山研究	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保田慎二, 小林正史, 宮田佳樹, 孫国平, 王永磊, 中村慎一	4. 巻 17
2. 論文標題 河姆渡文化における煮沸土器の使い分けと調理に関する学際的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kume, S., Miyata, Y., and Kadowaki, S.	4. 巻 38
2. 論文標題 Feasting with the dead on the Euphrates: Stable isotope analysis of carbonized residues on Early Bronze Age ceramics from the cemetery near Tell Ghanem al- 'Ali.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Rafidan	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横幕 真, 畑山智史, 佐藤巧庸, 覚張隆史, 宮田佳樹	4. 巻 62
2. 論文標題 古加賀三湖周辺における水産資源利用 - 貝類の自然科学分析を中心とした基礎的研究 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 石川考古学研究会会誌	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yonezawa T., Segawa T., Mori H., Campos P-F., Hongoh Y., Endo H., Akiyoshi A., Kohno N., Nishida S., Wu J., Jin H., Adachi J., Kishino H., Kurokawa K., Nogi Y., Tanabe H., Mukoyama H., Yoshida K., Rasoamiramanana A., Yamagishi S., Hayashi Y., Yoshida A., Koike H., Akishinonomiya F., Willerslev E., Hasegawa M.	4. 巻 27
2. 論文標題 Phylogenomics and Morphology of Extinct Paleognaths Reveal the Origin and Evolution of the Ratites	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Current Biology	6. 最初と最後の頁 68 ~ 77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.1016/j.cub.2016.10.029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 鹿又喜隆, 藤原二郎, 小野章太郎, 柳田敏雄, 菅野均志, 吉田邦夫	4. 巻 16
2. 論文標題 宮城県北西山麓域における後期旧石器文化の研究1;加美町砂坂遺跡第1次発掘調査-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bull. of the Tohoku Univ. Museum	6. 最初と最後の頁 5-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内信雄, 吉田邦夫	4. 巻
2. 論文標題 六反田南遺跡の土器付着炭化物の安定同位体分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『六反田南遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団	6. 最初と最後の頁 262-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米正吾, アイダ アブディカノワ, 早川裕弐, 宮田佳樹, 金田明美, 新井才二, 大沼克彦	4. 巻 24
2. 論文標題 ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学 -キルギス、ナリン川流域での日本 - キルギス合同考古学調査 (2016年) -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学会編『平成28年度考古学が語る古代オリエント 第24回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 中村賢太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 イカベツ2遺跡出土土器の残存有機物分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イカベツ2遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内信雄・吉田邦夫	4. 巻 -
2. 論文標題 「おざか清水遺跡の土器付着炭化物の安定同位体分析」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『おざか清水遺跡発掘調査報告書』十日町市教育委員会	6. 最初と最後の頁 100-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史・滝沢規朗	4. 巻 29
2. 論文標題 スス・コゲからみた東北地方（阿賀北以北）の弥生・古墳深鍋による炊飯方法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『新潟考古』	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 10
2. 論文標題 ラオス・オイ族における米品種の早晩性、粘り気度、水田の水量の関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北陸学院大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hakozaki Masataka, Miyake Fusa, Nakamura Toshio, Kimura Katsuhiko, Masuda Kimiaki, Okuno Mitsuru	4. 巻 60
2. 論文標題 Verification of the Annual Dating of the 10th Century Baitoushan Volcano Eruption Based on an AD 774?775 Radiocarbon Spike	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 261 ~ 268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi:10.1017/RDC.2017.75	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Okuno Mitsuru, Izbekov Pavel, Nicolaysen Kirsten P, Sato Eiichi, Nakamura Toshio, Savinetsky Arkady B, Vasyukov Dmitrii, Krylovich Olga A, Khasanov Bulat, Miranda Jonathan, Persico Lyman, Hatfield Virginia, West Dixie L, Bruner Kale M	4. 巻 59
2. 論文標題 AMS Radiocarbon Dates on Peat Section Related with Tephra and Archaeological Sites in Carlisle Island, the Islands of Four Mountains, Alaska	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 1771 ~ 1778
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1017/RDC.2017.130	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 南 雅代、富山慎二、中村俊夫	4. 巻 19
2. 論文標題 炭化物の高精度14C年代測定のための試料調製法の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第19回AMSシンポジウム報告集, 82-85	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田寛貴、中村和之、江波大樹、竹内 孝、中村俊夫	4. 巻 74
2. 論文標題 北海道函館市鉄山遺跡において発見された鉄滓の14C年代測定と鉄山町付近の製鉄に関する文献史料からの検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 考古学と自然科学	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤興平・南 雅代・中村俊夫・柴田 賢・児嶋美穂・武者 巖	4. 巻 22
2. 論文標題 木片の14C年代測定による前橋泥流堆積時期の再検討 (予察) .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 群馬県立自然史博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 95-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 窪田 薫・白井厚太郎・杉原奈央子・清家弘治・棚部一成・南 雅代・中村俊夫	4. 巻 2
2. 論文標題 日本最長寿の二枚貝殻に刻まれた津波と大気圏核実験の履歴	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋大学年代測定研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡 孝雄・近藤 務・中村俊夫・安井 賢・星野フサ・米道 博・山崎芳樹・関根達夫・若松幹男・赤松周平・乾 哲也	4. 巻 2
2. 論文標題 北海道厚真川流域の沖積層の堆積相解析・微化石解析・AMS14C年代測定に基づく堆積曲線および相対的海水準曲線の復元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋大学年代測定研究	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星野フサ・中村俊夫・北川浩之・岡 孝雄・近藤 務・米道 博・関根達夫・山崎芳樹・若松幹男・赤松周平	4. 巻 2
2. 論文標題 北海道南西部の手稲前田コア, 岩内コア, 狩場山麓 aコア, 厚真AZK-101号孔および奥尻島北部稲穂岬露頭におけるAMS14C年代測定と花粉分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋大学年代測定研究	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤興平・南 雅代・中村俊夫・武者 巖・柴田 賢	4. 巻 2
2. 論文標題 火山体崩壊に起因する火山災害軽減のためのパイロット研究: 木片の14C年代測定と巨石のSr同位体比からみた前橋泥流の時空分布	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋大学年代測定研究	6. 最初と最後の頁 35-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村俊夫・南 雅代・増田公明・小田寛貴・池田晃子・栗田直幸・山根雅子・西田真砂美・藤沢純平・方雨・徳丸 誠・木田梨沙子・酢屋徳啓・北川浩之	4. 巻 2
2. 論文標題 名古屋大学タンデトロンAMS14Cシステムの現状と利用 (2017)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋大学年代測定研究	6. 最初と最後の頁 79-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kume, S., Miyata, Y., and Kadowaki, S.	4. 巻 38
2. 論文標題 Feasting with the dead on the Euphrates: Stable isotope analysis of carbonized residues on Early Bronze Age ceramics from the cemetery near Tell Ghanem al- 'Ali	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Al- Rafidan	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyata, Y., Horiuchi, A., Kondo, M., Onbe, S., Yoshida, K., Nagao, S., Paleo Labo AMS Dating Group and Nishimoto, T.	4. 巻 58
2. 論文標題 Marine reservoir effects deduced from 14C dates on pottery residues, bones, and molluscan shells from the Hamanaka 2 archaeological site, Rebun Island, Hokkaido, Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 755-770
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/RDC.2016.93	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga, T., Nakanishi, T., Atarashi-Andoh, M., Takeuchi, E., Mutoh, M., Tsuduki, K., Nishimura, Koarashi, J., Otosaka, S., Sato, T., Miyata, Y. and Nagao, S.	4. 巻 310
2. 論文標題 Year-round variations in the fluvial transport load of particulate 137Cs in a forested catchment affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry	6. 最初と最後の頁 679-693
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10967-016-4840-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿又喜隆, 藤原二郎, 小野章太郎, 柳田敏雄, 菅野均志, 吉田邦夫	4. 巻 16
2. 論文標題 宮城県北西山麓域における後期旧石器文化の研究1 -加美町砂坂遺跡第1次発掘調査-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bull. of the Tohoku Univ. Museum	6. 最初と最後の頁 5-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Khenzykhenova, Fl., Shchetnikov, AA., Sato, T., Erbajeva, MA., Semenei, EY., Lipnina, EA., Yoshida, K., Kato, H., Filinov, II., Tumurov, EG., Alexeeva, N., Lokhov, DN.	4. 巻 425
2. 論文標題 Ecosystem analysis of Baikal Siberia using Palaeolithic faunal assemblages to reconstruct MIS 3 - MIS 2 environments and climate	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2016.06.026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 阿部昭典, 國木田大, 吉田邦夫	4. 巻 63
2. 論文標題 縄文時代における注口付浅鉢の成立過程と煮沸具化の意義	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 63-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内信雄, 吉田邦夫	4. 巻 57
2. 論文標題 「野首遺跡の土器付着物の分析」『野首遺跡発掘調査報告書 遺物編1』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 73-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米正吾, アイダ アブディカノワ, 早川裕弐, 宮田佳樹, 金田明美, 新井オニ, 大沼克彦	4. 巻 24
2. 論文標題 ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学 -キルギス、ナリン川流域での日本 - キルギス合同考古学調査 (2016年) -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 平成28年度考古学が語る古代オリエント 第24回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮田佳樹, 堀内晶子	4. 巻 11
2. 論文標題 保美貝塚伊川津貝塚出土土器の残存有機物分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 田原市埋蔵文化財調査報告書	6. 最初と最後の頁 294-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠部慎, 宮田佳樹	4. 巻 34
2. 論文標題 生駒遺跡出土条痕文土器の年代測定	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宮崎県埋蔵文化財センター	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本稔, 上野祥史, 鈴木一有	4. 巻 13
2. 論文標題 山ノ花遺跡出土土器の付着炭化物の炭素14年代測定	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成27年度浜松市文化財調査報告	6. 最初と最後の頁 104-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史, 外山政子	4. 巻 60
2. 論文標題 ラオス・オイ族における伝統的米品種の粘り気度の変化要因	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石川県考古学研究会会誌	6. 最初と最後の頁 15-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史	4. 巻 1
2. 論文標題 東北地方における縄文深鍋から弥生深鍋への調理方法の変化： 東北日本の遠賀川系深鍋による炊飯方法の特徴	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本考古学協会2016年度弘前大会・第1分科会 研究報告資料集	6. 最初と最後の頁 11-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林正史, 外山政子, 北野博司	4. 巻 96
2. 論文標題 ラオス・アタプー県オイ族の伝統的米作りの変容過程	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 物質文化	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計137件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 28件)

1. 発表者名 宮田佳樹, 白石哲也, 久保田慎二, 小林正史, 藤田三郎, 柴田将幹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 松崎浩之
2. 発表標題 弥生時代の人々はどんな食事をしていたのだろうか? - 唐古鍵遺跡出土土器の脂質分析 -
3. 学会等名 第37回日本文化財科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮内信雄, 吉田邦夫, 松崎浩之, 金原裕美子, 宮田佳樹
2. 発表標題 古代極東におけるワックス類の検討(1): トウヨウミツバチのミツロウのバイオマーカー
3. 学会等名 第37回日本文化財科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮内信雄、堀内晶子、西田泰民、高橋保、宮田佳樹、吉田邦夫
2. 発表標題 火炎土器の用途分析(2) - 新潟県六反田南遺跡における脂質(残留有機物)分析 -
3. 学会等名 第37回日本文化財科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村本周三、宮内信雄、堀内晶子、吉田邦夫、宮田佳樹
2. 発表標題 北海道太平洋沿岸地域における縄文文化期の古食性
3. 学会等名 第37回日本文化財科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠部慎、柴田晶児、宮里修、蔵本晋司、竹原弘展、宮田佳樹
2. 発表標題 四国西南地域における縄文弥生移行期の雑穀類の年代学的研究
3. 学会等名 第37回日本文化財科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保田慎二、小林正史、宮田佳樹
2. 発表標題 中国新石器時代長江下流域における土器利用の変遷 - 土器使用痕分析と残存脂質分析を中心に -
3. 学会等名 第86回日本考古学協会総会セッション「農耕開始期の食性を考える - 土器残存脂質分析による学際的アプローチ -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林謙一, 山本真也, 佐野隆, 宮内信雄, 堀内晶子, 宮田佳樹
2. 発表標題 中部高地の土器脂質分析 - 縄文時代前期から後・晩期にかけて -
3. 学会等名 第86回日本考古学協会総会セッション「農耕開始期の食性を考える - 土器残存脂質分析による学際的アプローチ -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本真也, 佐野隆, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 宮田佳樹
2. 発表標題 中部高地の土器脂質分析 - 縄文晩期から弥生時代へかけて -
3. 学会等名 第86回日本考古学協会総会セッション「農耕開始期の食性を考える - 土器残存脂質分析による学際的アプローチ -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠部 慎・柴田昌児・宮内 修・宮内信雄・堀内晶子・吉田邦夫・宮田佳樹
2. 発表標題 猿楽遺跡出土土器の脂質分析 - 縄文晩期の四国山地 -
3. 学会等名 第86回日本考古学協会総会セッション「農耕開始期の食性を考える - 土器残存脂質分析による学際的アプローチ -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白石哲也, 藤田三郎, 柴田将幹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 宮田佳樹
2. 発表標題 清水風遺跡出土土器の脂質分析から見えてきたもの
3. 学会等名 第86回日本考古学協会総会セッション「農耕開始期の食性を考える - 土器残存脂質分析による学際的アプローチ -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮田佳樹, 白石哲也, 久保田慎二, 小林正史, 藤田三郎, 柴田将幹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫
2. 発表標題 唐古・鍵遺跡出土土器の脂質分析 - 米はいつから主食となったのだろうか -
3. 学会等名 第86回日本考古学協会総会セッション「農耕開始期の食性を考える - 土器残存脂質分析による学際的アプローチ -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮田佳樹
2. 発表標題 土器脂質分析による古食性復元 - 古代人のクックパッド復元を目指して -
3. 学会等名 日本家政学会食文化研究部会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田佳樹
2. 発表標題 縄文人は土器で何を調理していたのだろうか? 土器残存有機物による古食性復元
3. 学会等名 船橋市飛ノ台史跡公園博物館事業「縄文大学」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田佳樹
2. 発表標題 長江下流域初期稲作遺跡出土土器の脂質分析結果
3. 学会等名 第73回日本人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 下釜和也, 堀内晶子, 宮内信雄, 新井才二, 赤司千恵, 吉田邦夫, ワレ・アラクパロフ, 西秋良宏, ファルハド・キリエフ
2. 発表標題 ギョイテベ遺跡出土土器の脂質分析 - コーカサス初期農耕民の乳利用 -
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 三谷曜子, 松石 隆, 村本周三, 高田秀樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 中村賢太郎, 松崎浩之, 吉田邦夫
2. 発表標題 縄文時代, 真脇遺跡ではイルカを食べていたのか!? - 土器脂質分析による日本列島における海棲ほ乳類利用の評価 -
3. 学会等名 第36回日本文化財科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渋谷綾子, 岡崎健治, 澤田純明, 宮田佳樹, 覚張隆史, 米田穰
2. 発表標題 長江下流域の新石器時代における食性と古病理
3. 学会等名 第85回日本考古学協会総会セッション「稲作と中国文明 - 総合稲作文明学の新構築」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 三谷曜子, 松石 隆, 村本周三, 宮内信雄, 堀内晶子, 高田秀樹, 平河内毅, 小林克也, 中村賢太郎, 松崎浩之, 吉田邦夫
2. 発表標題 真脇遺跡出土土器の脂質分析-土器に残された海産動物利用の痕跡を探る-
3. 学会等名 第六回日本動物考古学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮内信雄, 吉田邦夫, 松崎浩之, 宮田佳樹
2. 発表標題 古代土器から検出された低温加熱を示すシクロペンタン構造を有する脂肪酸の検討
3. 学会等名 第36回日本文化財科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 下濱貴子, 宮田佳樹
2. 発表標題 八日市地方遺跡出土土器の脂質分析
3. 学会等名 第85回日本考古学協会総会セッション
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田慎二・楚小龍・楊樹剛
2. 発表標題 二里頭文化的甕与深腹罐
3. 学会等名 記念二里頭遺址科学発掘60周年国際学術研討会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田慎二・秦小麗・吉開将人・小柳美樹・楨林啓介・楊平・神谷嘉美・松永篤知・中村慎一
2. 発表標題 長江下流域における物質文化の変遷と社会の複雑化
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中克典・上條信彦・久保田慎二・石川隆二・田崎博之・金原正明・金原美奈子・劉斌・王寧遠・陳明輝・王才林・趙春芳・中村慎一・宇田津
2. 発表標題 浙江省良渚遺跡群より出土したイネ種子のDNA分析
3. 学会等名 日本文化財科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田慎二
2. 発表標題 考古学的手法を中心とする土器研究と残存脂質分析の融合 中国の事例
3. 学会等名 日本文化財科学会第36回大会 土器科学分析研究会ワーキンググループ（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田慎二・小林正史・宮田佳樹・鏡百恵・劉斌・王寧遠・陳明輝・中村慎一
2. 発表標題 良渚遺跡群における煮沸土器の使い分け 卞家山・葡萄ハンの分析を中心に
3. 学会等名 日本中国考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林正史・外山政子・松永篤知
2. 発表標題 3Dスキャナを用いた上東遺跡井戸Pト出土深鍋のススコゲ分析
3. 学会等名 第36回日本文化財科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 東南アジア・南アジア民族誌における粥調理
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 弥生・古墳時代のススコゲの付く壺による調理方法
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細谷葵・小林正史・庄田慎矢・西田泰民・村上由美子・大川裕子
2. 発表標題 食からみる中国稲作社会の成立要因 - 化学分析と民族・文献調査から -
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林正史・外山政子
2. 発表標題 東日本の弥生・古墳時代の台付き深鍋の選択理由
3. 学会等名 考古学研究会第65回総会・研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaiki, Hiromasa Ozaki, Fuyuki Tokanai, Takeshi Nakatsuka
2. 発表標題 Annual Radiocarbon Dating of Japanese Tree Rings: Early-modern and Ancien
3. 学会等名 Radiocarbon and Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本稔・箱崎真隆・光谷拓実・中塚武
2. 発表標題 日本産樹木年輪の炭素14年代測定 - 年代研究と日本版較正曲線
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本稔・門叶冬樹・箱崎真隆・中尾七重
2. 発表標題 丸岡城天守の年代調査 - 3. 単年輪14C測定による較正曲線
3. 学会等名 日本文化財科学会第36回大会, 東京藝術大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本稔
2. 発表標題 炭素14年代法と較正年代
3. 学会等名 第56回アイソトープ・放射線研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本稔
2. 発表標題 REKIHAKU wood member collection of historical buildings - architectural and scientific approach.
3. 学会等名 ICOM KYOTO 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本稔
2. 発表標題 炭素14年代法による年代測定 - 日本版較正曲線の未来 -
3. 学会等名 日本活断層学会2019年度秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保田慎二、小林正史、宮田佳樹、孫国平、王寧遠、陳明輝、王永磊、劉斌、中村慎一
2. 発表標題 新石器時代長江下游の炊器利用与其演变
3. 学会等名 中国考古学研究・第2届 中日論壇 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyata, Y., Kubota, S., Kobayashi, M., Nishida, Y., Horiuchi, A., Miyauchi, N., Yoshida, K., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2. 発表標題 Paleo diets reconstructed from food residue in pottery in Lower Yangtze area using lipid analysis and compounds-specific and bulk stable isotope composition
3. 学会等名 Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (SEAA8) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kubota, S., Kobayashi, M., Miyata, Y., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2. 発表標題 Rice Cooking Method in Hemudu Culture of Chinese Neolithic Period at the Tianluoshan site, Zhejiang, China
3. 学会等名 Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (SEAA8) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi, M., Kubota, S., Miyata, Y., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2. 発表標題 Cross-cultural comparison of rice cooking methods of early rice farmers between Hemudu culture in the Lower Yangtze area and Japanese Yayoi culture
3. 学会等名 Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (SEAA8) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ochiai, S., Nagao, S., Miyata, Y., Matsuki, A. and Utsunomiya, D.
2. 発表標題 Transport processes of earth surface materials and atmospheric radionuclides in reservoir-catchment system
3. 学会等名 JpGU (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久米正吾, 早川裕弐, 覚張隆史, 藤澤明, 新井オニ, 金田明美, 山口雄治, 宮田佳樹, パフティヨル アブドゥッラエフ, ヒクマトゥッラ ホシモフ, アイダ アブディカノワ, ポキジョン マトババエフ
2. 発表標題 中央アジア初期農耕牧畜民の交流から東西交渉の始まりを探る - キルギス、モル・ブラク1遺跡(第2次)、ウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡(第1次)の発掘調査(2018年) -
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第26回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久米正吾, 早川裕弐, 覚張隆史, 藤澤明, 新井才二, ゲードレ モツザイテ マツゼビチウテ, 金田明美, 山口雄治, 宮田佳樹, パフティヨ ル アブドゥッラエフ, ヒクマトウラ ホシモフ, アイダ アブディカノワ, ボキジョン マトババエフ
2. 発表標題 天山・フェルガナの初期農耕牧畜民の考古学 - キルギス、モル・ブラク遺跡およびウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡の発掘調査 -
3. 学会等名 国際シンポジウム・国際研究会シルクロードを掘る - 今蘇る、いにしへの道 (招待講演)
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 下釜和也, 堀内晶子, 宮内信雄, 新井才二, 赤司千恵, 吉田邦夫, 松崎浩之, 西秋良宏
2. 発表標題 土器残存脂質から見た南コーカサスの初期農民の土器利用
3. 学会等名 第33回日本植生史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 鈴木信, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫
2. 発表標題 縄文人はサケを食べていたのか!? - 土器残存脂質分析から見た北海道内陸部のフードスケイプ -
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫, 松崎浩之
2. 発表標題 土器脂質分析研究室の開設 (MALT) - 日本列島のフードスケイプ (食景観) 復元を目指して
3. 学会等名 第84回日本考古学協会総会セッション
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 鈴木信, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器残存脂質分析によるサケマス類など遡上魚の検出-対雁2遺跡(北海道)を例として-
3. 学会等名 第六回日本動物考古学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田邦夫, 宮内信雄, 堀内晶子, 宮田佳樹
2. 発表標題 日本列島産現生生物の分子レベル炭素同位体組成と脂質組成に基づく食性解析
3. 学会等名 第84回日本考古学協会総会セッション
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田慎二, 小林正史, 宮田佳樹, 北野博司, 劉斌, 王寧遠, 陳明輝, 中村慎一
2. 発表標題 良渚文化の蒸し調理と土器の使い分け 良渚遺跡群美人地遺跡を例として
3. 学会等名 日本中国考古学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器残存有機物による日本列島のフーズケイブ復元の試み
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮内信雄, 吉田邦夫, 下濱貴子, 宮田佳樹
2. 発表標題 稲作文化定着時期の食生活を八日市地方遺跡出土調理用土器の残留有機物分析から検討する
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 米調理時間の短縮化を生み出した要因についての民族誌モデル
3. 学会等名 第84回日本考古学協会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林正史, 久保田慎二, 陳維鈞
2. 発表標題 土鍋のスス・コゲからみた台湾北部の新石器時代～中近世の炊飯方法
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 稲作農耕民の火処の選択要因についての民族誌モデル
3. 学会等名 考古学研究会第64回総会・研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮内信雄・吉田邦夫・西田泰民
2. 発表標題 日本列島産食材の炭素・窒素同位体比と調理による変化
3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会研究発表要旨集
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松崎浩之・徳山裕憲・土屋陽子・山形武靖・楠野葉瑠香・山道美和子・川本万里奈・吉田邦夫・宮内信雄・堀内昌子
2. 発表標題 東京大学タンデム加速器研究施設MALTの現状2018
3. 学会等名 第21回AMSシンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋陽子・松崎浩之・徳山裕憲・楠野葉瑠香・山道美和子・山形武靖・川本万里奈・宮内信雄・堀内晶子・吉田邦夫
2. 発表標題 MALTにおける加速器周辺装置のデータベース化に向けて
3. 学会等名 第21回AMSシンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・山田哲也・佐々木淑美
2. 発表標題 モルタルを用いた14C年代測定の検討
3. 学会等名 平成29（2017）年度第29回宇宙地球環境研究所シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・南 雅代・増田公明・小田寛貴・池田晃子・栗田直幸・窪田 薫・西田真砂美・椋本ひかり・藤沢純平・方 雨・徳丸 誠・酢屋徳啓・北川浩之
2. 発表標題 名古屋大学タンデトロ AMS14Cシステムの現状と利用 (2017)
3. 学会等名 平成29 (2017) 年度第29回宇宙地球環境研究所シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshio Nakamura, Takako Terada, Chikako Ueki and Masayo Minami
2. 発表標題 Radiocarbon dating of the medieval silk costumes from Ryukyu Islands, Japan
3. 学会等名 23rd International Radiocarbon Conference, Scandic Lerkendal Conference Center, Trondheim, Norway (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・山田哲也・佐々木淑美
2. 発表標題 モルタルを用いた遺構・遺物の14C年代測定 of 検討
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・宇田津徹朗・田崎博之
2. 発表標題 プラントオパールに残留する微細繊維による年代測定法の開発(1)
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫
2. 発表標題 纏向遺跡出土のモモの核の14C年代測定の成果
3. 学会等名 日本文化財科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・南 雅代・増田公明・小田寛貴・池田晃子・栗田直幸・山根雅子・西田真砂美・酢屋徳啓・北川浩之
2. 発表標題 名古屋大学AMS 14C測定の現状と応用研究(2018)
3. 学会等名 タンDEM加速器及びその周辺技術の研究会、東京都市大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・南 雅代・増田公明・三宅美紗・小田寛貴・池田晃子・栗田直幸・山根雅子・西田真砂美・酢屋徳啓・北川浩之
2. 発表標題 名古屋大学タンテトロンAMSシステムの現状(2018年度)
3. 学会等名 第21回日本AMSシンポジウム、日本大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫、寺澤薫、尾寄大真、坂本稔
2. 発表標題 日本産試料の14C年代の暦年較正;纏向遺跡の暦年代
3. 学会等名 第31回(2018年度)名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・南 雅代・増田公明・小田寛貴・三宅芙紗・池田晃子・栗田直幸・山根雅子・西田真砂美・佐藤里名・酢屋徳啓・北川浩之
2. 発表標題 名古屋大学タンテトロンAMS14Cシステムの現状と利用(2018).
3. 学会等名 第31回(2018年度)名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫・増田公明・三宅芙紗・箱崎真隆・奥野 充
2. 発表標題 日本産樹木年輪の14Cオフセット
3. 学会等名 国際火山噴火史情報研究集会、ふじのくに地球環境史ミュージアム(静岡)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村俊夫
2. 発表標題 パーミアンの二大仏と石窟壁画の放射性炭素年代測定
3. 学会等名 第11回高等研究院レクチャー「アフガニスタンの仏教遺跡-パーミアン文化遺産を解き明かす」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本真也, 宮入陽介, 横山祐典, 菅寿美, 大河内直彦
2. 発表標題 河口湖表層堆積物中の直鎖脂肪酸の化合物レベル放射性炭素年代
3. 学会等名 日本有機地球化学2018品川シンポジウム(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名	Laura Lamair, Aurelia Dominique Hubert-Ferrari, Shinya Yamamoto, Yusuke Yokoyama, Yosuke Miyairi, Ed Garrett, Osamu Fujiwara, Stephen Obrochta, Atsunori Nakamura, Marc De Batist, Vanessa M.A. Heyvaert, QuakeRecNankai Team
2. 発表標題	aleoearthquakes recorded in the Fuji Five Lakes during the last ca. 6000 years (Fuji Five Lakes, Japan)
3. 学会等名	日本地球惑星科学連合2018年大会（千葉市）
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	Aurelia Dominique Hubert-Ferrari, Laura Lamair, Shinya Yamamoto, Osamu Fujiwara, Yusuke Yokoyama, Stephen Obrochta, Yosuke Miyairi, Atsunori Nakamura, Marc De Batist, Vanessa M.A. Heyvaert, QuakeRecNankai Team
2. 発表標題	Natural hazards recorded in the Fuji Five Lakes: earthquake shaking, typhoon induced flooding and volcanic eruptions
3. 学会等名	日本地球惑星科学連合2018年大会（千葉市）
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	吉田邦夫
2. 発表標題	炭化物から分かる神明貝塚の土器で煮炊きしたもの
3. 学会等名	シンポジウム;神明貝塚;「発掘調査から分かる3800年前の縄文人のくらし
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	山本真也, 宮入陽介, 横山祐典, 菅寿美, 大河内直彦
2. 発表標題	河口湖表層堆積物中の直鎖脂肪酸の化合物レベル放射性炭素年代
3. 学会等名	日本有機地球化学2018品川シンポジウム（東京）
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 Laura Lamair, Aurelia Dominique Hubert-Ferrari, Shinya Yamamoto, Yusuke Yokoyama, Yosuke Miyairi, Ed Garrett, Osamu Fujiwara, Stephen Obrochta, Atsunori Nakamura, Marc De Batist, Vanessa M.A. Heyvaert, QuakeRecNankai Team
2. 発表標題 Paleoearthquakes recorded in the Fuji Five Lakes during the last ca. 6000 years (Fuji Five Lakes, Japan).
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会（千葉市）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aurelia Dominique Hubert-Ferrari, Laura Lamair, Shinya Yamamoto, Osamu Fujiwara, Yusuke Yokoyama, Stephen Obrochta, Yosuke Miyairi, Atsunori Nakamura, Marc De Batist, Vanessa M.A. Heyvaert, QuakeRecNankai Team
2. 発表標題 Natural hazards recorded in the Fuji Five Lakes: earthquake shaking, typhoon induced flooding and volcanic eruptions
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会（千葉市）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀内晶子
2. 発表標題 土器に残留する有機物から古代人の食環境をさぐる
3. 学会等名 日本油化学会 第18回基準油脂分析試験法セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮内信雄
2. 発表標題 化学分析から釣手土器を読む:長野県宮平遺跡の事例検討
3. 学会等名 異形の造形・釣手土器と有孔鋳付土器, 浅間縄文ミュージアム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Miyata, Y., Kubota, S., Kobayashi, M., Nishida, Y., Horiuchi, A., Miyauchi, N., Yoshida, K., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2 . 発表標題 Paleo diets reconstructed from food residue in pottery in Lower Yangtze area using lipid analysis and compounds-specific and bulk stable isotope composition
3 . 学会等名 Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (SEAA8) (国際学会)
4 . 発表年 2018年～2019年

1 . 発表者名 Kubota, S., Kobayashi, M., Miyata, Y., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2 . 発表標題 Rice Cooking Method in Hemudu Culture of Chinese Neolithic Period at the Tianluoshan site, Zhejiang, China.
3 . 学会等名 Rice Cooking Method in Hemudu Culture of Chinese Neolithic Period at the Tianluoshan site, Zhejiang, China. Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (SEAA8) (国際学会)
4 . 発表年 2018年～2019年

1 . 発表者名 Kobayashi, M., Kubota, S., Miyata, Y., Sun, G., Wang, Y. and Nakamura, S.
2 . 発表標題 Cross-cultural comparison of rice cooking methods of early rice farmers between Hemudu culture in the Lower Yangtze area and Japanese Yayoi culture.
3 . 学会等名 Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (SEAA8) (国際学会)
4 . 発表年 2018年～2019年

1 . 発表者名 Ochiai, S., Nagao, S., Miyata, Y., Matsuki, A. and Utsunomiya, D.
2 . 発表標題 Transport processes of earth surface materials and atmospheric radionuclides in reservoir-catchment system
3 . 学会等名 JpGU (国際学会)
4 . 発表年 2018年～2019年

1 . 発表者名 Sugimoto, R., Tanaka, M., Fujita, S. M., Miyata, Y. and Nagao, S.
2 . 発表標題 Drastic increase of sedimentation rates in the semi-enclosed coastal embayment along the Sea of Japan: possibility of regime shift caused by atmospheric nitrogen deposition. International Symposium “Fisheries Science for Future Generations”
3 . 学会等名 The Japanese Society of Fisheries Science (国際学会)
4 . 発表年 2017年 ~ 2018年

1 . 発表者名 Miyata, Y., Minami, M., Nakamura, T., Shimohama T., Tada, Y., Sano, T. and Nakatsuka, T. (2017)
2 . 発表標題 Radiocarbon dating on archaeological remains from the Youkaichijikata site, Ishikawa, Japan
3 . 学会等名 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (国際学会)
4 . 発表年 2017年 ~ 2018年

1 . 発表者名 Yamamoto, S., Miyata, Y., Ochiai S., Nagao S.
2 . 発表標題 Spatial-temporal variations of organic matter content in sediments from Lake Kawaguchi at the foot of Mt. Fuji.
3 . 学会等名 Contribution from Joint Usage /Research Center Projects, Symposium to Promote Joint Usage/ Research Center, Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University (国際学会)
4 . 発表年 2017年 ~ 2018年

1 . 発表者名 Ochiai, S., Nagao, S., Suzuki, T., Miyata, Y., Yonebayashi, K., Fukuyama, T., Yamamoto, M., and Nakamura, K.
2 . 発表標題 Transport processes of earth surface materials based on stable and radioactive isotopes of reservoir sediments in Noto Peninsula.
3 . 学会等名 Outstanding Research Topics from the Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University (国際学会)
4 . 発表年 2017年 ~ 2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 鈴木信, 宮内信雄, 堀内晶子, 久保田慎二, 村本周三, 中村賢太郎, 吉田邦夫
2. 発表標題 縄文人はサケを食べていたのか!? - 土器残存脂質分析から見た北海道内陸部のフードスケイプ -
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 鈴木信, 宮内信雄, 堀内晶子, 久保田慎二, 村本周三, 中村賢太郎, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器残存脂質分析によるサケマス類など遡上魚の検出-対雁2遺跡(北海道)を例として-
3. 学会等名 第六回日本動物考古学会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器脂質分析研究室の開設(MALT)-日本列島のフードスケイプ(食景観)復元を目指して
3. 学会等名 第84回日本考古学協会総会セッション
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 吉田邦夫, 宮内信雄, 堀内晶子, 宮田佳樹
2. 発表標題 日本列島産現生生物の分子レベル炭素同位体組成と脂質組成に基づく食性解析
3. 学会等名 第84回日本考古学協会総会セッション
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 杉本亮, 田中美輝子, 宮田佳樹, 長尾誠也
2. 発表標題 越境汚染により増大する陸域からの窒素流入負荷が沿岸生態系に及ぼす影響の評価
3. 学会等名 共同利用採択研究の成果報告「環日センターが育む共同利用の輪」
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 南雅代, 中村俊夫, 下濱貴子, 畑山智史, 長尾誠也, 多田洋平, 佐野雅規, 中塚武
2. 発表標題 水稲稲作導入から安定期にかけての北陸地方の遺跡環境復元-八日市地方遺跡(石川県小松市)を例として-
3. 学会等名 第3回名古屋大学宇宙地球環境研究所シンポジウム
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 落合伸也, 宮田佳樹, 長尾誠也, 松木篤, 宇都宮大輔
2. 発表標題 大気降下物中の放射性核種を用いた貯水池-流域系における地表物質の流出挙動の解明, 2017
3. 学会等名 日本放射化学会年会・第61回放射化学討論会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子, 宮内信雄, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器残存有機物の脂質と安定同位体組成による縄文時代の海産物利用の評価
3. 学会等名 第35回有機地球化学シンポジウム
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 久保田眞二, 小林正史, 堀内晶子, 西田泰民, 宮内信雄, 吉田邦夫, 孫国平, 中村慎一
2. 発表標題 中国新石器時代初期稲作遺構田螺山遺跡出土土器脂質分析による食性復元
3. 学会等名 日本第四紀学会2017年大会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子
2. 発表標題 礼文島浜中2遺跡出土土器の残存有機物分析-海獣の痕跡を探して-
3. 学会等名 日本セトロロジー研究会第28回(札幌)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子, 吉田邦夫, 中村俊夫, 高田秀樹
2. 発表標題 真脇遺跡出土土器の残存有機物分析
3. 学会等名 第五回日本動物考古学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子, 西田泰民, 吉田邦夫, 孫国平, 中村慎一
2. 発表標題 田螺山遺跡出土土器残存有機物を用いた古食性復元
3. 学会等名 第34回日本文化財科学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 宮内信雄, 堀内晶子, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器残存有機物による日本列島のフードスケイプ復元の試み
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮内信雄, 吉田邦夫, 下濱貴子, 宮田佳樹
2. 発表標題 稲作文化定着時期の食生活を八日市地方遺跡出土調理用土器の残留有機物分析から検討する
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子, 宮内信雄, 吉田邦夫
2. 発表標題 土器脂質分析ラボの構築 - MALT
3. 学会等名 2017年度日本質量分析学会同位体比部会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮田佳樹
2. 発表標題 分子レベル安定同位体比分析から見える古代の生活環境
3. 学会等名 2017年度日本質量分析学会同位体比部会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 横幕真, 畑山智史, 佐藤巧庸, 宮田佳樹
2. 発表標題 加賀三湖周辺における水産資源利用 - 自然科学分析を中心とした小松市大谷山貝塚の基礎的研究 -
3. 学会等名 第五回日本動物考古学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 堀内晶子, 下釜和也, 久米正吾, 吉田邦夫, 宮田佳樹
2. 発表標題 前期青銅時代のシリアTell Rumeilah墓群に残された土器の残留有機物分析
3. 学会等名 第34回日本文化財科学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮田佳樹, 久保田慎二, 小林正史
2. 発表標題 土器残存有機物の脂質分析と考古学への運用
3. 学会等名 華夏考古学術論壇 第4期(招待講演)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Ozaki, H, Omori, T, Itahashi, Y, Yamazaki, K, Kaneshawa, A, Uehara, K, Yamaguchi, A, Uchida, A, Yoshida, K and Yoneda, M.
2. 発表標題 The compact AMS system at the University Museum, the University of Tokyo
3. 学会等名 14th Int. Conf. on Accelerator Mass Spectrometry (国際学会)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Kato, H, Lipnina, E, Yoshida, K, Sato, T, Likhov, T.
2. 発表標題 The Paleolithic Site Mal' ta in Eastern Siberia: New Discoveries and New Situation.
3. 学会等名 The 82nd Annual Meeting of SAA. (国際学会)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 宮内信雄・吉田邦夫・萱沼亘・宮尾亨
2. 発表標題 「同一母資料から採取した土器付着炭化物の安定同位体比の変動について」
3. 学会等名 日本質量分析学会同位体比部会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 復元土器の水平割口の出現頻度による粘土紐接着強度の定量化
3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 和食の成立過程： 古代における飯用食器とオカズ・汁用食器の作り分け
3. 学会等名 考古学研究会第63回総会・研究集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 「弥生時代～古代の米飯の食べ方の変化」
3. 学会等名 日本考古学協会第83回総会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 坂本稔, 光谷拓実, 中塚武, 横山操, 鳴海祥博, 太田亜希, 田中正流, 神居文彰
2. 発表標題 平等院阿弥陀堂遺構材の調査 - 年代測定について -
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sakamoto, M. , Hakozaiki M., Nakao N., Nakatsuka T.
2. 発表標題 Fine structure and reproducibility of radiocarbon ages of early-modern Japanese tree rings
3. 学会等名 8th International Symposium of 14C & Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 坂本稔
2. 発表標題 日本産樹木年輪のAMS-14C測定 - 現状と課題 -
3. 学会等名 第19回AMSシンポジウム, 2016年度「樹木年輪」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Miyata, Y., Minami, M., Nakamura, T., Shimohama T., Tada, Y., Sano, T. and Nakatsuka, T.
2 . 発表標題 Radiocarbon dating on archaeological remains from the Youkaichijikata site, Ishikawa, Japan
3 . 学会等名 14th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Yamamoto, S., Miyata, Y., Ochiai S., Nagao S.
2 . 発表標題 Spatial-temporal variations of organic matter content in sediments from Lake Kawaguchi at the foot of Mt. Fuji.
3 . 学会等名 Contribution from Joint Usage /Research Center Projects, Symposium to Promote Joint Usage/ Research Center, Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ochiai, S., Nagao, S., Suzuki, T., Miyata, Y., Yonebayashi, K., Fukuyama, T., Yamamoto, M., and Nakamura, K.
2 . 発表標題 Transport processes of earth surface materials based on stable and radioactive isotopes of reservoir sediments in Noto Peninsula
3 . 学会等名 Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, Symposium to Promote Joint Usage / Research Center, Institute of Nature and Environmental Technology (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sugimoto, R., Tanaka, M., Miyata, Y. and Nagao, S.
2 . 発表標題 Eutrophication induced by atmospheric nitrogen deposition in the semi-enclosed embayment along the Sea of Japan.
3 . 学会等名 Estuarine Coastal and Shelf Science 56 Coastal systems in transition: From a 'natural' to an 'anthropogenically-modified' state (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 Miyata, Y., Horiuchi, A., Cramp, L., Kondo, M., Sakamoto, M., Yoshida, K., Onbe, S., Nagao, S., Minami, M. and Nakamura, T., Nishimoto T., and Evershed, R. P.
2. 発表標題 Reconstruction of archaeological remains at the late Jomon period from Rebun Island in Japan: in terms of reservoir effect, stable isotope analysis, lipid analysis and compound specific isotope analysis
3. 学会等名 The 8th international symposium on Radiocarbon and archaeology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Miyata, Y., Kume, S., Abdykanova, A., Chargynov, T. and Ohnuma, K.
2. 発表標題 Radiocarbon data from archeological sites in Kyrgyzstan
3. 学会等名 The 8th international symposium on Radiocarbon and archaeology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nagao, S., Terasaki, S., Miyata, Y. and Odano, N.
2. 発表標題 Variations in ¹³⁴ Cs and ¹³⁷ Cs Radioactivity of Coastal Marine Sediments off the Abukuma River in Japan during 2013-2015.
3. 学会等名 The 26th Goldschmidt Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子, 吉田邦夫, 中村俊夫, 高田秀樹
2. 発表標題 真脇遺跡出土土器の残存有機物分析
3. 学会等名 第五回日本動物考古学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮田佳樹, 堀内晶子, 西田泰民, 吉田邦夫, 孫国平, 中村慎一
2. 発表標題 田螺山遺跡出土土器残存有機物を用いた古食性復元
3. 学会等名 第34回日本文化財科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久米正吾, アイダ・アブディカノフ, 早川裕弐, 宮田佳樹, 金田明美, 新井オニ, 大沼克彦
2. 発表標題 ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学 キルギス、ナリン川流域での日本 - キルギス合同考古学調査 (2016年)
3. 学会等名 第24回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富田純平, 阿部琢也, 坂口 綾, 宮田佳樹, 長尾 誠也, 山本 政儀
2. 発表標題 南相馬市で採取した地下水・湧水・水道水中の人工及び天然放射性核種分布
3. 学会等名 日本保健物理学会第49回研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮田佳樹, 南雅代, 中村俊夫, 下濱貴子, 長尾誠也, 多田洋平, 佐野雅規, 中塚武
2. 発表標題 動物骨の放射性炭素年代と安定同位体組成を用いた水稲稲作安定期の北陸地方の遺跡環境復元-八日市地方遺跡を例として-
3. 学会等名 第33回日本文化財科学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 早川翼, 勝田長貴, 國分(齋藤)陽子, 長谷部徳子, 村上拓馬, 宮田佳樹, 長谷川精, 長尾誠也, 川上紳一, 柏谷健二
2. 発表標題 モンゴル西部の湖沼堆積物を用いた完新世後期の古環境変動解析
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2016年大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉本亮, 田中美輝子, 宮田佳樹, 長尾誠也
2. 発表標題 日本海側の流域圏で進行する越境汚染ストレス: 流域からの窒素流入負荷量の増大が若狭湾沿岸生態系に及ぼす影響の評価
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2016年大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 弥生・古墳時代(相当期)の鍋釜からみた西日本と韓半島間の調理方法の違い
3. 学会等名 考古学研究会第62回総会・研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 東北地方の初期水田稲作研究の進展
3. 学会等名 Anthropology of Japan in Japan研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 蒸したウルチ米が主食となった理由
3. 学会等名 日本考古学協会第82回総会発表要旨
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林正史, 久保田慎二, 孫国平, 王永磊
2. 発表標題 竪穴建物の焼却と覆土での火焚き行為の理由
3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kobayashi, M., Kubota, S., Sun, G., Wang, Y.
2. 発表標題 Cooking pottery use-wear analysis to reconstruct rice cooking methods of early rice farmers in Japan and Middle China
3. 学会等名 SEAA 7th meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林正史
2. 発表標題 東北地方における縄文深鍋から弥生深鍋への調理方法の変化：東北日本の遠賀川系深鍋による炊飯方法の特徴
3. 学会等名 日本考古学協会2016年度弘前大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横幕真, 畑山智史, 佐藤巧庸, 宮田佳樹
2. 発表標題 加賀三湖周辺における水産資源利用 - 自然科学分析を中心とした小松市大谷山貝塚の基礎的研究 -
3. 学会等名 第五回日本動物考古学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀内晶子, 下釜和也, 久米正吾, 吉田邦夫, 宮田佳樹
2. 発表標題 前期青銅時代のシリアTell Rumeilah墓群に残された土器の残留有機物分析
3. 学会等名 第34回日本文化財科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀内晶子, 宮田佳樹
2. 発表標題 同一土器内における残留有機物質の分布から見える分析結果の解釈の注意
3. 学会等名 第33回日本文化財科学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 久保田慎二・小林正史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 『河姆渡文化と粥』 『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』	

1. 著者名 小林正史・久保田慎二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 「良渚文化の蒸し調理の特性」『河姆渡と良渚：中国稲作文明の起源』	

1. 著者名 小林正史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 近代文藝社	5. 総ページ数 308
3. 書名 「炊飯方法の研究」『やきもの』	

1. 著者名 小林正史・北野博司・宇野隆夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 59-95
3. 書名 「食器」『モノと技術の古代史』	

1. 著者名 小林正史	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 157-205
3. 書名 「使い方との関連からみた土器の製作技術」『モノと技術の古代史』	

1. 著者名 小林正史	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 9-55
3. 書名 「鍋の形・作りの変化」『モノと技術の古代史』	

1. 著者名 中尾七重, 坂本稔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本民家園叢書	5. 総ページ数 67
3. 書名 合掌造りはいつ建てられたか - 炭素14による民家年代調査 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東京大学総合研究博物館 http://www.um.u-tokyo.ac.jp/academics/research.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 俊夫 (Nakamura Toshio) (10135387)	名古屋大学・宇宙地球環境研究所・招へい教員 (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂本 稔 (Sakamoto Minoru) (60270401)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	小林 正史 (Kobayashi Masashi) (50225538)	北陸学院大学・人間総合学部(社会学科)・教授(移行) (33307)	
研究分担者	北野 博司 (Kitano Hiroshi) (20326755)	東北芸術工科大学・芸術学部・教授 (31501)	
研究分担者	山本 真也 (Yamamoto Shinya) (50526754)	山梨県富士山科学研究所・その他部局等・研究員 (83501)	平成30年度より, 研究分担者
研究分担者	久保田 慎二 (Kubota Shinji) (00609901)	金沢大学・国際文化資源学研究センター・特任助教 (13301)	令和元年度より, 研究分担者
研究分担者	吉田 邦夫 (Yoshida Kunio) (10272527)	東京大学・総合研究博物館・特招研究員 (12601)	令和元年度より, 研究協力者
研究協力者	堀内 晶子 (Horiuchi Akiko)		
研究協力者	宮内 信雄 (Miyauchi Nobuo)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	上條 信彦 (Kamijyo Nobuhiko)		
研究協力者	村本 周三 (Muramoto Shuzo)		
研究協力者	榎田 誠 (Kashida Makoto)		
研究協力者	下濱 貴子 (Shimohama Takako)		
研究協力者	横幕 真 (Yokomaku Makoto)		
研究協力者	外山 政子 (Toyama Masako)		
研究協力者	遠部 慎 (Onbe Shin)		
研究協力者	高田 秀樹 (Takada Hideki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 敦 (Takahashi Tsutomu)		
研究協力者	小此木 真理 (Okonogi Mari)		
研究協力者	青山 晃 (Aoyama Akira)		
研究協力者	納屋内 高史 (Nayauchi Takashi)		
研究協力者	藤田 慎一 (Fujita Shinichi)		
研究協力者	松永 篤志 (Matsunaga Atsushi)		
研究協力者	野原 大輔 (Nohara Daisuke)		
研究協力者	久田 正弘 (Hisada Masahiro)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤田 三郎 (Fujita saburo)		
研究協力者	白石 哲也 (Shiraishi Tetsuya)		
研究協力者	佐野 隆 (Sano Takashi)		
研究協力者	福井 淳一 (Fukui Junichi)		
研究協力者	三谷 曜子 (Mitani Yoko)		
研究協力者	松石 隆 (Matsuishi Takashi)		
研究協力者	平河内 毅 (Hirakouchi tsuyoshi)		
研究協力者	日原 俊 (Hihara Shun)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐々木 北斗 (Sasaki Hokuto)		
研究協力者	吉田 邦夫 (Yoshida Kunio)		令和元年度より，研究協力者